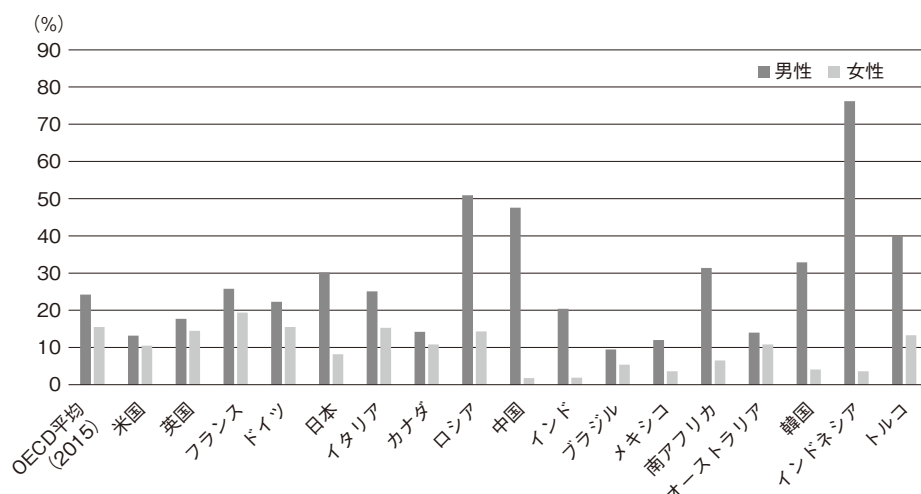


15 歳以上人口に占める男女別喫煙率（2017 年直近年）



喫煙率にはいくつかの統計があるが、今回は OECD のデータを紹介する。喫煙は、脳卒中、がん、呼吸器疾患等のリスクファクターであり、各国で規制が進んでいる。日本の喫煙率は年々減少傾向にあるが、男女差が大きく、男性のみをみた場合、OECD 平均を上回る。ただし、女性の喫煙率に大きな変化はないものの、男性の喫煙率は 80 年代と比べて半減している。一方で日本の喫煙対策の甘さは以前から指摘されており、WHO による受動喫煙対策調査では最低ランクに分類されている。WHO は「健康の社会的決定要因 (SDH)」の観点から、喫煙が社会的環境と関連することも指摘している。

OECD 「Health at a Glance 2017」を基に作成